

総説 (平成25年度横浜市立大学医学会賞受賞研究)

悪性リンパ腫の予後改善を目指した包括的臨床研究

富田直人

横浜市立大学大学院医学研究科 病態免疫制御内科学

要旨: 悪性リンパ腫の治療成績は、特に抗CD20抗体であるRituximab (R) の登場により特にB細胞性リンパ腫の代表的組織型であるdiffuse large B-cell lymphoma (DLBCL) においては約70%の治癒率を認めている。しかし、約30%のDLBCLは標準的治療とされるR-CHOP療法では治癒に至らず、難治性である。T細胞性リンパ腫においては有効な新薬の出現がなく、最近20年での治療成績の向上は認められていない。我々は悪性リンパ腫の予後改善を目指し、多数症例を対象に様々な臨床研究を行ってきたため、その主な成果を報告する。

Key words: malignant lymphoma, central nervous system, double hit lymphoma, prognosis